＜シンポジウムのご案内＞

スペイン国営　セルバンテス文化センター東京
2010 年11 月吉日

～スペイン発世界周航　マラスピナ 2010 記念～

海の生物多様性と地球環境を考える

「海洋生物多様性調査船プロジェクト」シンポジウム

2010 年 11 月 12 日（金）　19:00 より

入場無料･要事前予約　＊同時通訳つき

国連の『国際生物多様年』の本年、日本で先般開催された、生物多様性条約会議 COP10 が大きな論議を呼びました。そして、この 11 月には、スペインの「海洋生物多様性調査船プロジェクト」に関する講演会が東京において開かれます。同プロジェクトは、200 年前、スペインのカディスから「発見」「大胆」という名の 2 艘の戦艦で研究周航の帆を上げたマラスピナを隊長とする遠征隊に因んで進められているものです。当時の同遠征隊は民間人及び軍人から構成され、太平洋水圏学と北米西海岸のスペイン領に関する研究を目指す壮大な計画でした。残念ながらこの計画は、戦争により中断を余儀なくされましたが、そのマラスピナ没後 200 年を記念して、本年大きなプロジェクトが組まれています。
この講演会では、同プロジェクトのご紹介とともに、地球環境と海洋の変動についてこの分野のエキスパートよりそれぞれの研究を基にした活発な意見交換がされる予定です。
地球環境への関心がますます高まるなか、ぜひこの機会にシンポジウムにご参加ください。

◆シンポジウム概要◆
日時　　：2010 年11月12日（金）19：00　より　（受付開始 18 時 30 分）
会場　　：セルバンテス文化センター東京　（別紙地図をご参照ください。）
入場料　：無料
言語：　スペイン語･日本語（同時通訳つき）
出演者　：カルロス･ドゥアルテ　（スペイン高等科学研究所研究員）
スサナ･アグスティ　（スペイン高等科学研究所研究員）
古谷　研（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
参加申込：事前に予約が必要です。メールにてお申し込みください。　info@cervantes.jp

出演者プロフィール

カルロス・ドゥアルテ・ケサダ

スペイン高等科学研究所（CSIC）及びバレアレス諸島大学の混成研究機関である地中海先端研究機構 IMEDEA にて教鞭をとる。マドリッド自治大学にて環境生物学専攻を専攻し、ポルトガルで 2 年の滞在研究を行った後、1987 年にカナダ・モントリオール・マギル大学で湖生態学についての博士論文。その後フロリダ大学で研究期間を経て、CSIC の博士研究員として海洋生態系学の研究に取り組み始める。
研究者として入局後はブラネス先端研究所、そして IMEDEA と移り現在に至る。主な研究テーマは水生態系（湖、潟、沼地、川、多様なマングローブ地、サンゴ礁、海中牧場、河口、地中海・大西洋・北極海・太平洋・南極海）の機能、生物層機能における地球規模での役割、地球温暖化に対するその反応である。『Science』、『Nature』、『PNAS』などに 400 を越える学術記事を発表、研究書では数々の章の執筆を担当、書籍 2 冊刊行。30 以上の研究プロジェクトの監修も務め、スペイン初の北極海調査や現在計画進行中の「マラスピナ 2010」調査周航もその一つ。アメリカ陸水学・海洋学協会会長、雑誌『Estuaries and Coasts』編集者、2005 年よりヨーロッパ学会、2009 年からは欧州高等研究機関に所属。2001 年には研究の功績を認められアメリカ陸水学・海洋学協会よりジョージ・イブリン・ハッチンソン章を受賞。2005 年からはフィラデルフィア科学情報機構より彼の論文が 7000 以上の引用をされたことから《*Highly Cited Scientist*》として認知されるようになる。2007 年に国立研究賞《*Alejandro Malaspina*》、2008 年にカンタブリア政府・カンタブリア大学から環境章《アレハンドロ・マラスピナ》を獲得。翌年の 2009 年にはハイメ 1 世環境保護研究賞を受賞。また環境保護サービスの提案で治安警備隊十字銀勲章を受勲。

スサナ・アグスティ

スペイン高等科学研究所（CSIC）研究員。地球変動国際研究所（CSIC-PUC）、地中海先端研究機構在マヨルカ島エスポルラス地球温暖化研究部所属。
マドリッド自治大学生物学博士。博士研究の一部をカナダ・モントリオール・マギル大学にて行う。フロリダ大学、CSIC 地中海先端研究機構及びブラネス先端研究所に勤めた後、現在は地球温暖化国際研究所（CSIC チリ・ポンティフィシア・カトリカ大学）研究員。100 を越える学術論文を執筆、Science や PNAS といった権威ある雑誌にも寄稿している。大西洋及び南極大陸の海洋学プロジェクトを数多く指揮。生態学と海洋プランクトンの光合成組織生活圏における役割を研究の中心テーマとしている。

古谷　研（ふるや　けん）

東京大学大学院農学生命科学研究科・教授
神奈川県に生まれ。東京大学理学部生物学科 4 年時に生物海洋学に強い興味をもち、卒業後、同大学大学院農学系研究科水産学専攻修士課程入学。所属研究室は同大学海洋研究所プランクトン部門で、博士課程修了までの 5 年間、太平洋熱帯・亜熱帯海域における植物プランクトン群集動態の研究に取り組み、1981 年に農学博士号を取得。
その後、同部門助手、三重大学生物資源学部助教授を経て、現職に至る間、沿岸から外洋まで海洋のプランクトン生態と物質循環の研究を行う。最近は窒素固定生物の研究に重点を置いている。亜熱帯域を中心に海洋面積の 6 割を占める海域では、生命に不可欠な窒素が一年の大半にわたり不足するため窒素固定能力をもつプランクトンが重要なはたらきをしているが、これらの生物が大陸からのダスト（例えば黄砂）の影響を強く受けることや、西部北太平洋と東部南太平洋ではそれらの生態が大きく異なるらしいことが判ってきた。これを解明するために太平洋を東西に横断する調査航海を 2011 年 12 月に実施すべく準備を進めている。

会場までのアクセス

セルバンテス文化センター東京
〒102-0085　東京都千代田区六番町 2－9　セルバンテスビル
TEL: 03-5210-1705　FAX: 03-5210-1811

東京メトロ有楽町線「麹町」駅より徒歩 3 分
JR／東京メトロ有楽町線・南北線／都営新宿線「市ヶ谷」駅より徒歩 6 分
JR／東京メトロ丸の内線「四ツ谷」駅より徒歩 7 分

会場には駐車場を併設しておりません。

～本件に関するお問い合わせ先～
セルバンテス文化センター　担当：金子健太郎
TEL：03-5210-1800